

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

No.5

2017/12/01

りそなホールディングス 市場企画部



○今月の相場見通し (サマリー)

※各マーケットコメントは11月30日 (木) 9:00現在

		11月29日現在 (矢印は10月末比)	今月の予想 (12月1日～12月29日)
為替相場	ドル・円 (円)	↘ 111.93	上昇 ↗ 108.00 ~ 114.00
	ユーロ・円 (円)	⇒ 132.60	下落 ↘ 128.00 ~ 134.00
株式相場	日経平均 (円)	↗ 22,597	上昇 ↗ 21,500 ~ 23,500
	NYダウ (ドル)	↗ 23,941	上昇 ↗ 23,000 ~ 24,500
長期金利	日本 (%)	↘ 0.03	上昇 ↗ 0.00 ~ 0.12
	米国 (%)	↘ 2.39	上昇 ↗ 2.15 ~ 2.55

○今月の注目ポイント

米国の税制改正論議が株・金利に影響

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気動向	○	【景気動向】11月に公表された米国経済指標は、ハリケーンによって上振れた分の大きな反動減はみられず、概ね堅調に推移した。マインド指数も依然高水準であり、当面回復局面が続く見通し。 【物価動向】米CPI、食品とエネルギーを除くコアCPIの伸び率はほぼ横ばい。物価が伸び悩むなか、緩やかな利上げペースとなろう。
金融政策	○	【米利上げペース】12/13のFOMCでは利上げが実施される見通しだが、焦点は来年以降の利上げペース。足元の堅調な景気などを理由に複数回の利上げが示唆される見込みであり、金利上昇が進む。 【日銀国債買入】日銀国債買入オペで11/17に「1-3年」、11/24に「25年超」、11/27に「1年以下」のゾーンが減額された。また黒田日銀総裁が低金利の弊害に言及するなど、減額が続けば緩和縮小が意識されやすい。
政治	◎	【米国政治】税制改正法案の成立時期が焦点。上下院法案の不一致点の調整で難航が予想されるが、2018年の中間選挙をにらみ共和党内でも早期成立の必要性がある。年内に決着せずとも、来年初成立の道筋が立てば、リスクオン地合いは継続。 【米国政治】12/8に政府暫定予算期限を迎える。暫定予算期限延長の審議が難航すれば、税制改正法案の早期成立の足かせと成り得る。
その他	△	【テクニカル】年末にかけて金利上昇傾向 (直近5年連続で12月は上昇)。

○今月の重要日程

1日 (金)	日	10月CPI	14日 (木)	英	金融政策委員会
1日 (金)	米	11月ISM製造業景況感指数	14日 (木)	欧	ECB理事会
5日 (火)	米	11月ISM非製造業景況感指数	15日 (金)	日	日銀短観(12月調査)
8日 (金)	米	11月雇用統計	21日 (木)	日	金融政策決定会合
13日 (水)	米	11月CPI	21日 (木)	スペイン	カタルーニャ議会選
13日 (水)	米	FOMC	26日 (火)	日	11月CPI

今月の見通し	
為替	【ドル円】 税制改正法案は、遅くとも来年初には成立の目途が立つ見込み。またFOMCでは25bp利上げに加え、来年以降の利上げについて前向きなスタンスが示され、ドル買いの材料となろう。好調なクリスマス商戦や税制改革期待からドル円は戻りを試す展開を想定。 【ユーロ】 ユーロ圏では良好な経済指標が相次いでいるが、政治面では不透明な環境が継続。金融政策面でも1月から量的緩和の縮小を開始するがペースは緩やかであり、政治面・金融政策面からユーロは売られやすいだろう。
株式	【日本株】 日銀によるETF買いが相場を支える構図は変わらず。クリスマス商戦期待などを背景とした米株高も支えに堅調地合いを見込む。 【米国株】 出だし好調となったクリスマス商戦への期待から年末にかけてじり高の展開を想定。税制改正法案成立時期が年内とならずとも、来年初の成立に目途が立てば、堅調地合いを維持する見通し。
長期金利	【円金利】 方向感に乏しい動きが継続。日銀による国債買入オペ縮小の動きもあり、需給面では超長期債を中心に金利が低下しづらい環境。一方、10年0.10%台では日銀による指値オペもあり、一方向の金利上昇も見込みがたい。 【米金利】 米金利は税制改革の進展やクリスマス商戦期待から上昇しやすい。金融政策面でも12月FOMCでの利上げ、記者会見やドットチャートで来年以降の複数回の利上げが示唆される見通しであり、金利上昇圧力となろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



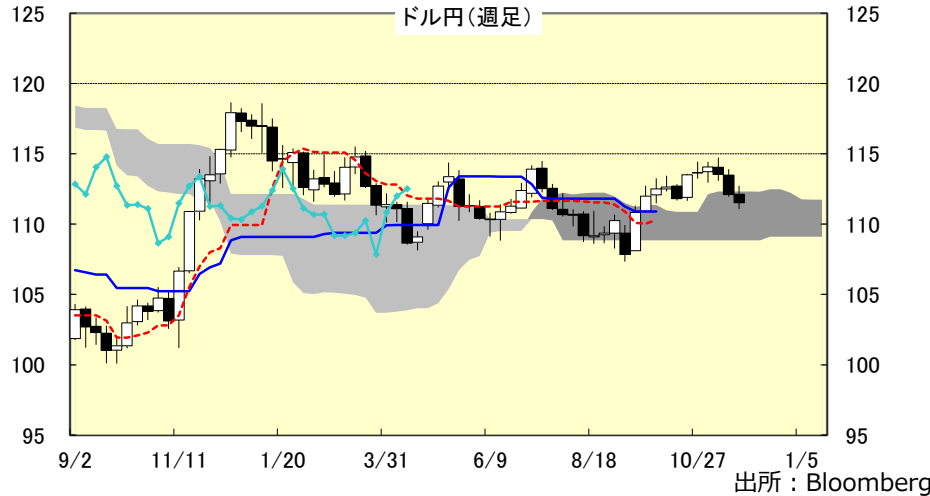
りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2017年12月号)

2017/12/01

○今月の相場見通し① 為替

ドル 円



米ドル・円



ドル・円は上昇

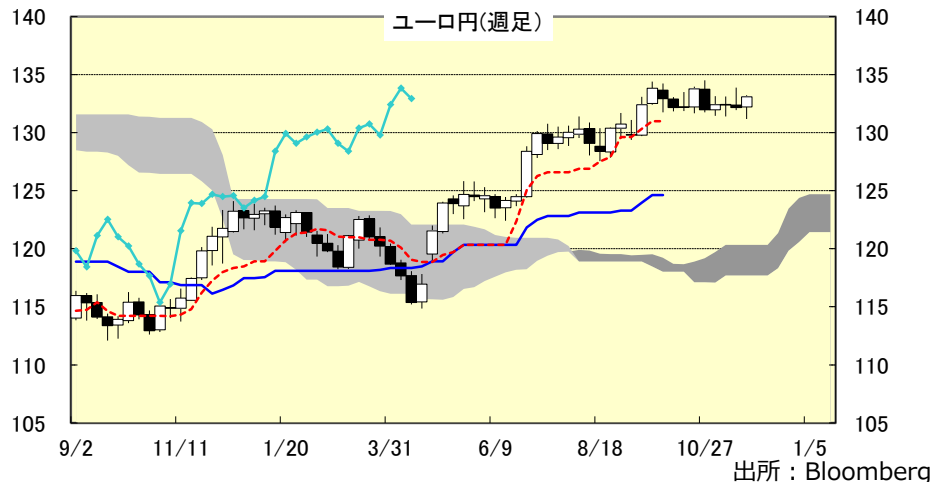
108.00 - 114.00円

ドル円は税制改革期待とFRB利上げスタンスから上値を試す展開を想定

月初は税制改革法案の進展が注目。上院案と下院案は隔たりが大きいものの、税制改正法案の必要性についての認識は一致していることから、来年初の法案成立に目途が徐々に立ち、ドルの買い材料となろう。

13日にFOMCが開催され、25bpの利上げはコンセンサス。また、FOMC参加者の利上げ見通しを示すドットチャートは9月同様、来年に3回の利上げを見込んでいることが明らかになるであろう。パウエル次期FRB議長のもとで、2018年のFRBは、現状よりもメンバーがタカ派となることを想定。市場では2018年に1-2回の利上げを見込んでいるが、徐々にFRBが見込む3回へシフトするであろう。年末にかけては、好調なクリスマス商戦や税制改正への期待もあり、リスク資産が買われやすく、ドル円は上値を試すと予想。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.15 - 1.20ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

128.00 - 134.00円

ユーロは政治の不透明感と緩和的な金融政策を受けてじり安を想定

ユーロ圏ではファンダメンタルズ面で良好な経済指標の公表が相次いでいる一方、政治面での不透明感が強まっている。まずドイツでは総選挙後の連立政権の枠組みがまとまっていない。メルケル首相は連立政権の取りまとめを試みるが、再選挙の可能性を含めて楽観できる状況ではないであろう。また、21日にスペインでカタルーニャ州議会選挙があり、ユーロの重石となろう。

ECBは来年1月より量的緩和の縮小を開始するがペースは緩やか。14日理事会も様子見であろう。一方、FRBは12月に利上げを実施し、来年以降も継続的な利上げを進める見込みである。金融政策の観点からもユーロは売られやすい。ユーロ円も徐々に下値を探る展開を想定。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

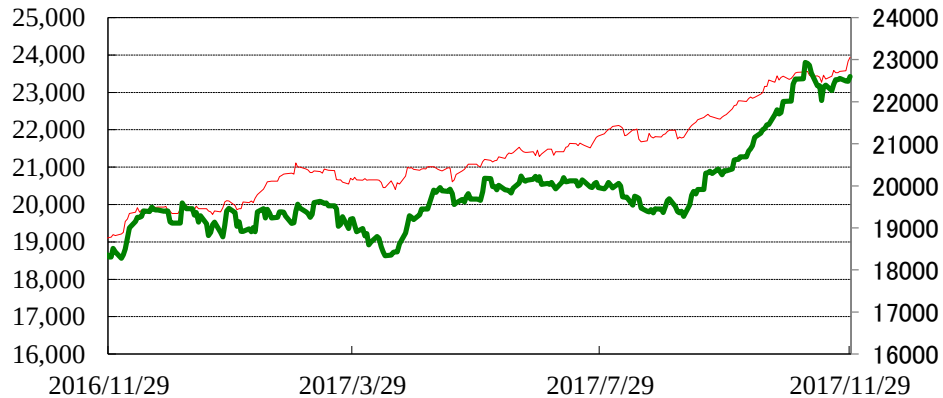
(2017年12月号)

2017/12/01

○今月の相場見通し② 株式、長期金利

株 式 見 通 し

— NYダウ (左軸、ドル) — 日経平均 (右軸、円)



出所：Bloomberg

日経平均



日経平均は上昇

21,500 – 23,500円

日銀によるETFの買いが引き続き相場を支え堅調地合いを維持する見通し。米税制改革論議に注目が集まるが、来年初の法案成立に目途が立てば一段の上昇が見込まれる。クリスマス商戦への期待も背景に米株に連れ高となろう。

NYダウ



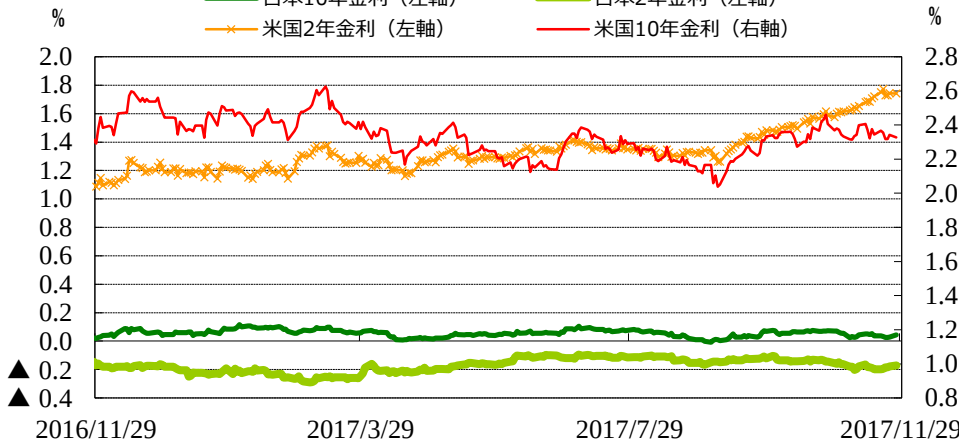
ダウは上昇

23,000, – 24,500ドル

11/23の感謝祭明けのブラックフライデーから始まったクリスマス商戦は出だし好調となった。**年末にかけて商戦への期待から値を上げる見通し。**税制改革論議が注目されるが、年内に法案成立とならずも、来年初成立に目途が立てば更に相場を押し上げよう。

長 期 金 利 見 通 し

— 日本10年金利 (左軸) — 日本2年金利 (左軸)
— 米国2年金利 (左軸) — 米国10年金利 (右軸)



出所：Bloomberg

日本国債10年



金利はもみ合い

0.00 – 0.12%

方向感に欠ける動きを想定。日銀による国債買入オペ縮小の動きもあり、需給面では超長期債を中心に金利が低下しづらい環境。一方、10年0.10%台では日銀による指値オペもあり、一方向の金利上昇も見込みがたい。

米国債10年



金利は上昇

2.15 – 2.55%

米金利は税制改革の進展やクリスマス商戦期待から上昇しやすい。株高の進行も相場の重石となろう。金融政策面でも12月FOMCでの利上げ、記者会見やドットチャートで来年以降の複数回の利上げが示唆される見通しであり、金利上昇圧力となる。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2017年12月号)

2017/12/01



○マーケットカレンダー

【前半】

	日本	米国	その他
12/1(金)	★10月CPI 10月家計調査 10月雇用統計 法人企業統計	10月建設支出 11月ISM製造業景況感指数	
12/4(月)	11月マネタリーベース 11月消費動向調査	10月製造業受注	
12/5(火)	10年債入札	10月貿易収支 11月ISM非製造業景況感指数	(EU) 10月小売売上高 (豪) 10月小売売上高 (豪) 準備銀行理事会
12/6(水)	国庫短期証券(6ヶ月)	11月ADP民間雇用調査	★(独) 10月製造業受注 (豪) 10月貿易収支
12/7(木)	10月景気動向指数 国庫短期証券(3ヶ月)	10月消費者信用残高	★(中) 11月貿易統計 ★(独) 10月鉱工業生産 (英) 10月鉱工業生産・製造業生産 ★(独) 10月貿易収支
12/8(金)	★11月景気ウォッチャー調査 10月毎月勤労統計 11月貸出・預金動向 7-9月期GDP2次速報値	★11月雇用統計	
12/9(土)			★(中) 11月CPI
12/11(月)	11月マネーストック		
12/12(火)	10月第3次産業活動指数 5年債入札	★FOMC(-13日) 11月財政収支	(英) 11月CPI
12/13(水)	★10月機械受注 国庫短期証券(2ヶ月程度)	★11月CPI	(EU) 10月鉱工業生産 (英) 11月失業率
12/14(木)	10月稼働率 20年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)	★11月小売売上高 10月企業在庫 11月輸入物価指数	(英) BOE金融政策委員会 (豪) 11月失業率 (中) 11月固定資産投資 ★(EU) ECB定例理事会 ★(中) 11月鉱工業生産 ★(中) 11月小売売上高
12/15(金)	★10-12月期日銀短観	★11月鉱工業生産 10月対米証券投資 12月NY連銀製造業景況指数	

【後半】

	日本	米国	その他
12/18(月)	★11月貿易統計 国庫短期証券(1年) 流動性供給入札(残存期間15.5年超39年未満)		(EU) 11月CPI
12/19(火)		★11月住宅着工	★(独) 12月IFO景況指数
12/20(水)	10月全産業活動指数 国庫短期証券(3ヶ月) 資金循環統計	★11月中古住宅販売件数	(独) 11月PPI
12/21(木)	黒田日銀総裁定例会見	11月シカゴ連銀全米活動指数 11月景気先行指数 12月フィラデルフィア連銀製造業景況指数 7-9月期GDP確報値	(EU) 12月消費者信頼感指数
12/22(金)	流動性供給入札(残存期間5年超15.5年以下)	★11月新築住宅販売 11月個人所得・消費支出	
12/23(土)	<天皇誕生日>		
12/25(月)		<クリスマス> ★10月S&PコアブジックCS住宅価格指数 12月リッチモンド連銀製造業景況指数	<クリスマス> <英・豪・香港 ポクシングデー> <独・香港 クリスマス休暇>
12/26(火)	★11月CPI 11月家計調査 11月雇用統計 2年債入札		★(独) 11月小売売上高
	日銀金融経済月報 日銀金融政策決定会合 議事要旨 (10/3-31開催分)		
12/27(水)	11月住宅着工件数	11月中古住宅販売成約指数	
12/28(木)	★11月鉱工業生産 11月商業販売統計	12月シカゴ地区製造業PMI	
12/29(金)			
12/30(土)	◎大納会		
12/31(日)	<大晦日>		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2017年12月号)

2017/12/01

○市場動向

		16年12月末	17年3月末	17年6月末	17年9月末	11/29(水)
東京	ドル・円(仲値)	116.55	112.81	112.00	112.74	111.62
	ユーロ・円(仲値)	122.79	119.81	128.02	132.81	132.27
	豪ドル・円(仲値)	84.38	85.82	86.24	88.56	84.89
	NZドル・円(仲値)	81.24	78.47	82.04	81.45	76.91
	ドル・円(15：30時点)	116.61	111.79	112.06	112.69	111.46
	ユーロ・円(15：30時点)	122.90	119.43	128.11	132.75	132.18
	ユーロ・ドル(15：30時点)	1.0538	1.0684	1.1433	1.1780	1.1859
	ドル円直先スプレッド* (3ヵ月、銭/ドル)	d 55.0	d 41.3	d 45.6	d 53.9	d 54.0
N Y	ドル・円	116.96	111.39	112.39	112.51	111.93
	ユーロ・ドル	1.0517	1.0652	1.1426	1.1814	1.1847
	英ポンド・ドル	1.2340	1.2550	1.3025	1.3398	1.3409
	スイスフラン・ドル	1.0190	1.0026	0.9579	0.9683	0.9846
東京	日経平均（225種/円）	19,114.37	18,909.26	20,033.43	20,356.28	22,597.20
	東証株価指数（TOPIX）	1,518.61	1,512.60	1,611.90	1,674.75	1,786.15
	日経ジャスダック指数	2,739.25	3,045.84	3,251.67	3,593.10	3,814.53
	東証マザーズ指数	942.68	1,070.89	1,181.74	1,093.10	1,165.84
	東証1部出来高（百万株）	1,667.86	2,222.23	1,968.97	1,731.36	1,701.83
海外	NYダウ（ドル）	19,762.60	20,663.22	21,349.63	22,405.09	23,940.68
	ナスダック総合指数	5,383.12	5,911.74	6,140.42	6,495.96	6,824.39
	中国上海総合指数	3,103.64	3,222.51	3,192.43	3,348.94	3,337.86
	SENSEX（インド）	26,626.46	29,620.50	30,921.61	31,283.72	33,602.76
	ブラジルボエバ指数	60,227.29	64,984.07	62,899.97	74,293.51	72,700.45
	MICEX指数（ロシア/ドル建）	2,232.72	1,995.90	1,879.50	2,077.19	2,124.08
金（NY先物、期近）（ドル）		1,151.70	1,247.30	1,242.30	1,281.50	1,282.10
原油（WTI先物、期近）（ドル）		53.72	50.60	46.04	51.67	57.30
CRB先物指数		192.51	185.88	174.78	183.09	190.90

			16年12月末	17年3月末	17年6月末	17年9月末	11/29(水)
国内金利	無担保コール	オーバーナイト物	-0.058	-0.060	-0.069	-0.063	-0.053
	日本円TIBOR	3ヵ月	0.05727	0.05727	0.05727	0.05727	0.06727
		6ヵ月	0.10636	0.10636	0.10636	0.10636	0.11636
	利付2年国債	新発債	-0.195	-0.224	-0.119	-0.170	-0.115
	利付5年国債	新発債	-0.114	-0.125	-0.070	-0.145	-0.070
	利付10年国債	新発債	0.041	0.065	0.084	0.000	0.065
	利付20年国債	新発債	0.570	0.630	0.590	0.535	0.595
	円／円スワップ	2年	0.02456	0.05065	0.04250	0.03549	0.03770
		5年	0.07509	0.10307	0.09877	0.10999	0.10127
		10年	0.22922	0.26436	0.25208	0.26370	0.25872
20年		0.65604	0.67917	0.63193	0.65865	0.66371	
海外金利	米金利	FFレート	0.50	0.81	1.05	1.05	1.16
		TB（3ヵ月）	0.497	0.752	1.011	1.041	1.284
		T-NOTE（10年債）	2.444	2.387	2.304	2.334	2.388
	LIBOR	日本円（3ヵ月）	-0.04657	0.02593	-0.00014	-0.05121	-0.01000
		米ドル（3ヵ月）	0.99789	1.14956	1.29917	1.33389	1.48063
		ユーロ（3ヵ月）	-0.33643	-0.35786	-0.37200	-0.37943	-0.38171
		英ポンド（3ヵ月）	0.36663	0.33744	0.30669	0.33500	0.52138
		スイスフラン（3ヵ月）	-0.72920	-0.72960	-0.73000	-0.72600	-0.75200
		豪ドル（3ヵ月）	1.80000	1.79000	1.71000	1.71000	1.73000
		NZドル（3ヵ月）	2.00000	2.00500	1.99000	1.96000	1.91000

(注) 月末が休日の場合は前営業日データ

(注) 月末が休日の場合は前営業日データ

◎注意事項
 当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

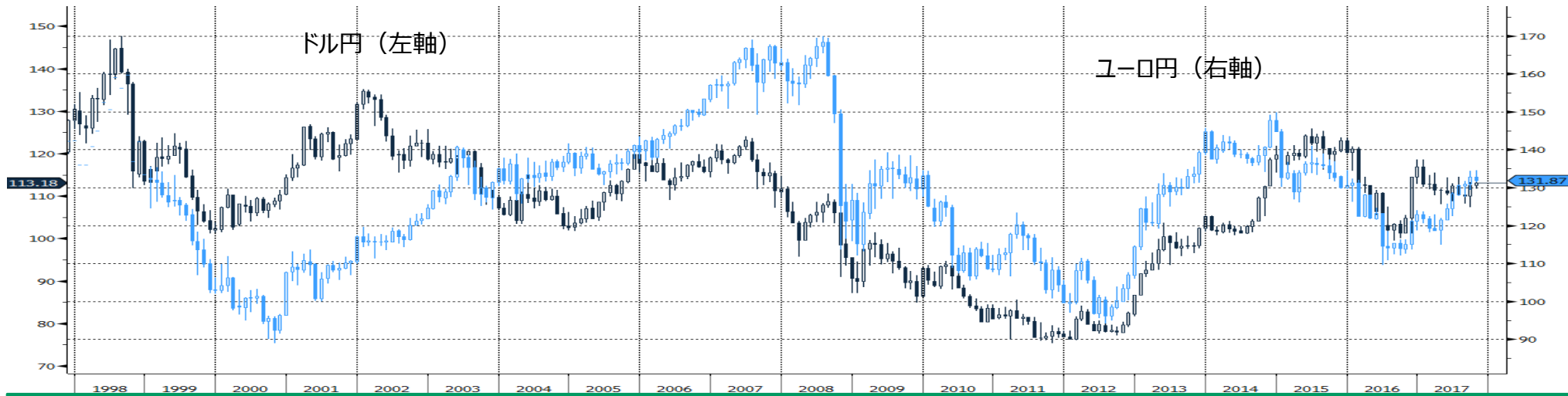
(2017年12月号)

2017/12/01

○チャート集① 過去20年間の相場推移（外国為替、株式）

出所：Bloomberg

ドル円とユーロ円



日経平均とNYダウ



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2017年12月号)

2017/12/01

○チャート集② 過去20年間の相場推移（長期金利、商品）

出所：Bloomberg

米国10年金利と日本10年金利



原油（WTI原油先物）と金（NY先物）



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュ マンスリー (2017年12月号)

2017/12/01

○チャート集③ 過去20年間の相場推移（新興国株式）

出所：Bloomberg

中国上海総合指数



インドSENSEX指数



ロシアMICEX指数



ブラジルBOVESPA指数



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュ マンスリー

(2017年12月号)

2017/12/01

◎景気の現状と見通し① 日本

景気の現状

緩やかな持ち直し、内需低調も堅調な外需が支え

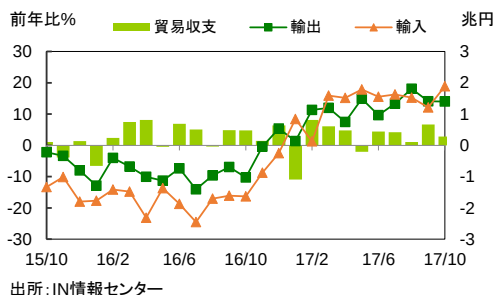
日本経済は、緩やかな持ち直しの動きが継続。7-9月期GDPからは、悪天候により内需低調も、堅調な外需に支えられた構図がみられた。

1-1 7-9月期GDP、悪天候で内需が低調も7四半期連続プラス成長
2017年7-9月期GDPは前期比+0.3%と7四半期連続でプラス成長（4-6月期+0.6%）。寄与度の内訳をみると（4-6月期→7-9月期、%ポイント：以下pp）、個人消費（+0.4pp→▲0.3%）がマイナス寄与した一方、外需（▲0.2%→+0.5%）がプラス寄与。

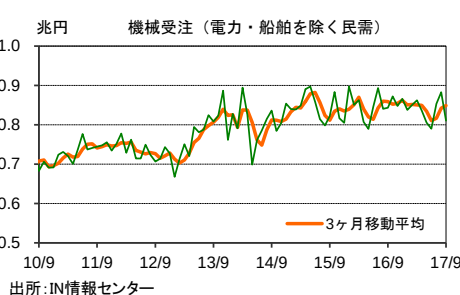
1-2 鉱工業生産、生産は持ち直しの動き
10月鉱工業生産は、前月比+0.5%と前月の予測調査（+4.7%）を下回った。経済産業省の製造業予測調査によると、11月は+2.8%、12月は+3.5%の見通し。

1-3 5カ月連続で貿易黒字
10月貿易収支は2,854億円の黒字、5ヶ月連続の黒字。輸出は自動車や半導体等製造装置の増加が目立ち、輸入は鉱物性燃料の前年比プラスが続く。

貿易統計



機械受注

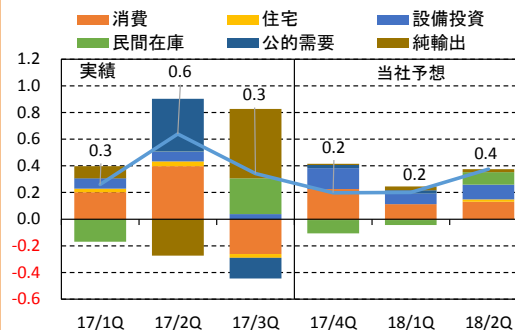


- 1-4 個人消費、実質ベースで2ヵ月ぶりのマイナス
9月家計調査によると、1世帯当たり消費支出は、前年比▲0.3%と2ヵ月ぶりのマイナス。
- 1-5 機械受注、3ヵ月ぶりに減少
9月の機械受注によると、船舶・電力を除く民間からの受注額は、前月比▲8.1%の8,105億円と、3ヵ月ぶりに減少。製造業は3ヵ月ぶりの減少、非製造業は4ヵ月ぶりの減少。
- 1-6 消費者物価指数、総合、コアの伸び率が共に横ばい
9月消費者物価指数は総合CPIは前年比+0.7%、生鮮食品を除くコアCPIが前年比+0.7%と伸び率は前月と変わらず。

GDP予想

GDP予想 - 2017年度 + 1.5%、2018年度 + 1.2%を想定

日本の2017年度の実質GDP成長率は前年度比+1.5%を想定。力強い外需と財政刺激策に支えられる見通し。2018年度は+1.2%を想定。米中金融引き締めの影響から2017年度対比での鈍化を見込む。ただ、米国税制改革や消費増税前の駆け込み需要から緩やかな減速に留まる見通し。



%、内訳は寄与度	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 予測	2018年度 予測
実質GDP	1.3	1.3	1.5	1.2
個人消費	0.3	0.4	0.6	0.5
住宅投資	0.1	0.2	0.1	0.0
設備投資	0.1	0.4	0.4	0.4
在庫投資	0.4	-0.4	-0.2	0.1
公的需要	0.3	-0.1	0.2	-0.0
外需	0.1	0.8	0.4	0.2

【出所】IN情報センター、りそなHD

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

○景気の現状と見通し② 米国・欧州・中国

米国

米国経済、景気拡大が続く

米国経済は、7-9月期GDPが改定値で上方修正され、雇用は堅調さを維持。小売売上高はハリケーンによる上振れ効果剥落も前月から増加。消費者物価は伸び鈍化も上昇が続く。

- 7-9月期GDP改定値、前期比年率+3.3%（速報値：+3.0%、4-6月期：3.1%）

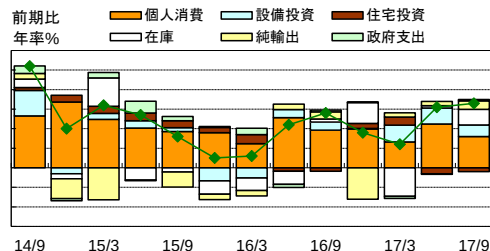
設備投資が+4.7%（速報値：+3.9%）と上方修正。

- 10月雇用統計、非農業部門雇用者数は前月比+26.1万人
製造業+24千人（9月+6千人）は3ヶ月連続で増加、サービス業は+219千人（9月▲3千人）と大きく増加した。賃金は前年比+2.4%と前月（+2.8%）から伸びが鈍化。

- 10月小売売上高は前月比+0.2%、ハリケーン要因で上振れた前月（+1.9%）から伸び鈍化も市場予想（±0.0%）は上回る
全13業種中9業種で売上が増加、スポーツ・書籍・趣味用品や健康用品などが増加した一方、ハリケーン要因で上振れた前月の反動で建設資材、ガソリンスタンドなどが減少した。

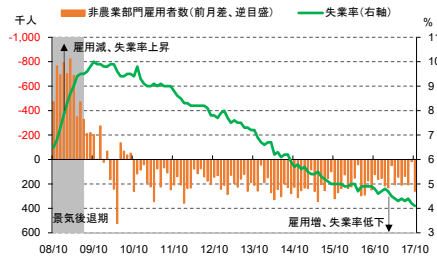
- 10月消費者物価、総合は伸び鈍化もコアはやや加速
総合は前年比+2.0%（9月+2.2%）、コアは前年比+1.8%（9月+1.7%）。

GDP



出所：Bloomberg

雇用統計



出所：HAVER、りそなHD

欧州

ドイツ経済、堅調な景気拡大が続く

ドイツ経済指標は依然として良好、堅調な景気拡大が示唆された。

9月の鉱工業生産は減少したものの、製造業受注は前月から増加。貿易面では、黒字幅が拡大した。

11月景況感指数は独IFOは過去最高を更新、ZEW（期待）は3ヶ月連続で改善した。

ユーロ圏では、PMIは前月比で製造業が上昇した一方、非製造業が低下。物価面では10月消費者物価指数が前年比+1.4%（9月+1.5%）と小幅に鈍化。

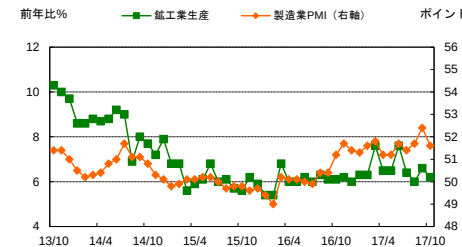
中国

10月の指標はまちまち

10月の鉱工業生産は前年比+6.2%（9月+6.6%）、貿易は輸出額が前年比+6.9%（9月+8.0%）、小売売上高は前年比+10.0%（9月+10.3%）、固定資産投資（年初来）は前年比+7.3%（9月+7.5%）と鈍化した。

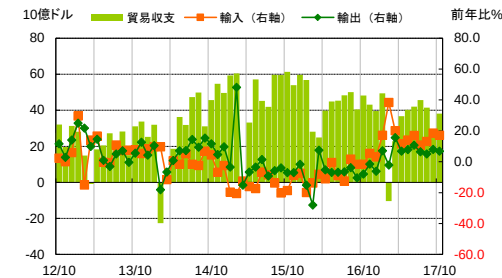
10月消費者物価指数（CPI）は前年比+1.9%と、9月+1.6%から伸びが拡大。

鉱工業生産と製造業PMI



出所：Bloomberg、りそなHD

貿易統計



出所：Bloomberg、りそなHD

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。